平常の狀態に復す

堂山工場今尚不穩の形勢あり

官憲の警戒嚴重を極む

怠業後の八幡製鐵所は今尚警戒に任ずる事となりたるが白野貞幹、田村正夫等演說をなし官憲兵の嚴重なる警戒の下に作業をなしつゝあるが十二日朝の交代時に入場したる職工一萬五百人直拂人夫四千二百二十六人々夫九百六十九人に及ぶも怠業前と殊ちがはる狀態となりたるが今尚ほ堂山工場の鍛冶工場、製鐵工場、機關工場に不穩の形勢あり同工場に於ける職工は最も質の惡き者なるより嚴重なる警戒をなしつゝあり

▲警察隊

續々引揚ぐ

福岡縣下各署より應援のため來幡中なる警官も製鐵所が殆ど鎭靜に朔したるより漸次引揚ぐるとなりたるが前記の如く今尚工場內の一部に不穩の形勢ありて全部の引揚げ不可能なるより下の何程の警官を殘留せしむるか十二日午後二時までには決定を見るに至らず巡査廿四名だけ引揚げたり尚應援のため來幡中なる憲兵も岡山、廣島、姫路其の他の

◇遠方より出張し來り居れる憲兵だけは十二日引揚げ福岡小倉地方より來幡せる憲兵のみ殘つて警戒をなすことゝなりたり

▲勞友會の演說會

勞友會にては十二日午後一時より同會本部に於て相原澄藏、黑田取調べ中なり

▲又一人收監

勞友會の幹事

八幡警察署に於て取調べ中なりし勞友會幹事廣安秀一は十二日午前十時三十分小倉分監に收監されたり

▲職工一般に自分の意志を徹底させ度い

白仁長官以下の苦心

白仁長官は十二日朝往訪の記者に語りて曰

▲檢事正引揚

警察判事殘留

怠業勃發以來八幡署に出張なりし安達檢事正及び各檢事は十二日一先づ八幡を引揚げたるが平田、佐藤兩豫審判事は殘留し

の意志を職工一般に徹底させい事である如何にしてこれを徹底せしむるかにつき十一日夜上

なんかの事が分るものかどうかそれなら古手の知事や民政長官上りか